

は、当然個人情報扱うというふうに思っておりますので、そういったところの意識というか、決して漏らさないようにというところが必須だというふうに思っておりますので、そういったところをしっかりとというような表現をさせていただきました。

いずれにしろ、市民にとっては相談窓口、気軽に相談できる相談窓口が多ければ多いほどいいというふうに思っておりますので、引き続きそういった団体の発掘といいますか、育成に努めたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

行政と別の気軽な場所に相談の窓口を設けて、支援が必要な方には、行政とつなぐ役割を担ってもらい、仕事として委託することで任意の活動も持続可能になると考えます。ぜひ前向きにご検討ください。

最後に、兵庫県明石市の紹介をさせていただきます。

明石市は、「やさしい社会を明石市から」というキャッチフレーズで、子供を核としたまちづくりが行われております。子育てしやすい、暮らしやすいまちを目指した結果、人口増、税収増を実現しています。

糸魚川市も、ほか自治体の後追いをする姿勢ではなくて、糸魚川市からという気概で市政運営されること熱望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

関連質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで約10分間の休憩をいたします。再開を2時40分といたします。

〈午後2時28分 休憩〉

〈午後2時40分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）

和泉克彦でございます。

私の一般質問に先立ちまして、このたび、能生地域島道地区における雪崩災害でお亡くなりになりました方への哀悼の意を申し上げ、ご親族の方々には、お悔やみを申し上げます。

それでは、発言通告書に基づいて、質問いたします。

1、糸魚川地域の鉄道を利用した地域観光の連携等について。

(1) 今年1月11日付の新聞等で、JR西日本は、不採算のローカル線に関して「今考えなければ地域の輸送自体が廃れてしまう。待ったなしの状態だ」と、見直しに意欲を示したとの報道がされています。さらにJR西日本が今月3日付で発表した、大糸線南小谷・糸魚川駅間に関する報道発表の「大糸線沿線の活性化及び持続可能な路線としての方策検討の開始について」を受け、「廃止も視野に入れ検討している」とした一部の報道に対して、米田市長が、4日の臨時記者会見において、「誠に遺憾である」と抗議されました。

大糸線の存続については、今までも議論がなされてきたところではありますが、ここにきて、にわかに風雲急を告げる状況となってきています。このような事態を受けて、行政としての今後の方向性について伺います。

(2) かつては、生活路線としての位置づけもありましたが、昨今の交通事情から、今後は、観光路線としての存続の道をさらに模索していくことが必要だと思います。行政としては、これまでの取組も含め、どのような方策を検討されているのか、伺います。

(3) 2015（平成27）年春に、糸魚川駅のアルプス口にオープンした糸魚川ジオステーションジオパルでは、鉄道ジオラマをはじめとし、そのジオラマで走らせることができる鉄道模型や様々な鉄道の資料が展示されています。コロナ禍ではありますが、令和3年度は、4月から12月に、21万人弱の来場者があります。あわせて、昨年7月4日から、えちごトキめき鉄道株式会社の企画で、「国鉄形観光急行」を直江津・市振間で、土休日を基本に運行中です。この企画に、全国からの鉄道ファンが糸魚川地域、市振にも大勢訪れています。ジオパルや市振駅へ鉄道ファンに再び訪れてもらうために、ジオパルの展示品などをさらに有効活用するための方策について伺います。

2、いじめ問題と「特別の教科道徳」に係る子供の心の成長について。

(1) 1月28日に行われた教育委員会定例会において、当市の小中学生の不登校といじめ件数が、前年度に比べて増加していることが報告されました。昨年6月、私の一般質問での「いじめ件数」の推移についての答弁は、平成30年度64件、令和元年度48件、令和2年度55件とのことでしたが、今年度は、12月までに91件と大幅に増加しています。その理由や背景等について伺います。

(2) いじめや不登校は、子供たちの成長期において、大きな影響を与えるものと考えます。特に、コロナ禍において、大人のみならず、子供たちにも閉塞感が否めない状況にあります。そのような状況で、子供たちの自己肯定感や自己有用感などの啓発、社会問題化しているいじめなどの保護者や家族への啓発に効果は見られているのか、伺います。

(3) コロナ禍における閉塞感を覚える中、学校教育を通して、特に「特別の教科道徳」の果たすべき役割が大きいと考えます。この「特別の教科道徳」を通して、子供たちに、人との関わりの中で、相手を尊重し、自分自身の将来についても希望が持てる、また、郷土・糸魚川

への誇り、そして、日本人としての誇りを持つことができるための方策として、偉人教育の必要性を感じます。歴史上の人物、あるいは近現代の人物、そして、子供たちにとって身近な著名人などの生きざまから、自分自身の明るい将来を思い描き、想像する力を養うことができると思いますが、いかがでしょうか。伺います。

以上で、私の1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

和泉議員のご質問にお答えします。

1番目の1点目につきましては、現在は、大糸線や沿線地域の活性化に向けた活動を行っているところであり、引き続き、新潟・長野両県、沿線関係者の皆様と共に持続可能な路線となるよう取り組んでおります。

2点目につきましては、大糸線活性化協議会において、沿線地域の観光資源を活用し、大糸線の活性化とさらなる交流人口拡大を目指し、取組を進めております。

3点目につきましては、ジオパルには各所から展示品が寄せられているところであり、随時、展示替えをしながら有効活用を行っております。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

和泉議員の2番目のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、いじめの認知件数の増加は、各校がいじめの定義に基づいて、いじめを積極的に認知し、初期段階で丁寧に対応するなど、組織的な対応に努めている現れだと捉えております。

2点目につきましては、感染症の予防に配慮しながら、事業や特別活動の中で子供たち同士が積極的に関わり、認め合う機会をつくり、自己有用感や自己肯定感を育てることに努めております。

また、いじめ防止や子供たちの頑張り、活躍については、学校だよりやホームページ等で保護者や地域に発信し、周知と啓発に努めております。

3点目につきましては、子供たちの豊かな心を育成するために、各校の指導計画に基づいて、糸魚川の自然や文化を生かしたり、様々な分野で活躍する人物を扱ったりするなど、道徳の授業改善を積極的に進めるよう働きかけております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。

それでは、2回目の質問をいたします。

大糸線活性化協議会が2019年2月に立ち上がり、これまで事業に取り込まれてきていますが、約3年が経過するわけですけれども、これまでの成果などをどのように集約・評価していますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線活性化協議会では、発足以来、観光利用の強化を軸というもので取り組んでまいりました。サイクルトレインですとかモデルツアー、企画列車の雪月花の乗り入れ等やってきておりますが、やはり同じ年の台風から、もう引き続きコロナ禍というところで、なかなか直接、乗りにつながる取組というのが、取り組んでいけないのが実情でございます。

そんな中で、大糸線応援隊というものを申し込んで、今そういうインターネットを通じた裾野の広がりというもの、できることをやっとなというものが実情でございますので、これからのコロナ禍の状況を見ながら、これらの取組について活性化も含めて継続してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

今ほど協議会の事業概要についてもちょっと触れられましたけども、事業内容としては、4本の柱を掲げています。

1本目が生活利用、2本目が観光利用、3本目が地域連携・協働、4本目が安全・安心・快適、この4本柱が掲げられておりますが、具体的にもう一度、取組について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

応援隊の取組内容につきましては、今ほど議員おっしゃったとおりの4本柱で取り組んでおります。

生活利用の中では、定期券の助成など、2つ目の観光利用の強化では、サイクルトレインですとか雪月花、3つ目の地域連携に関しましては、市村民の交流というものも目指しました花いっぱい

事業、これはまだ取り組めておりません。あと4つ目の安全・安心の分野に関しましては、駅施設のバリアフリーですとか、サインの充実というところをイメージしておりますが、少しまだ現在まで取組には至ってないというような状況でございます。今現在は、なかなか先ほどの答弁の繰り返しになりますけど、具体的な活動というようなところに、行くに行けないというような状況が続いておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

いろいろなことを企画されてるようですが、コロナ禍という、こういう状況の中で、なかなか難しい部分があるのかなというふうに思います。

私も大糸線応援隊の一人で、ナンバーが461ですか、午前中の渡辺議員の答弁で、令和2年12月から募集して、今年の2月現在で約1,600人ということでしたが、その活動内容として、ステップ1からステップ5があるんですけども、なかなかそういうのって地域の方というか、市民の方も分かってないと思うんですよね。私は、たまたまそういう応援隊員でありますから、それに向けての興味・関心があるんですけども、市民の方にそういう取組をしてるという形で、ステップ1からステップ5の活動内容について、教えていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、ステップ1の「大糸線を広げる」ということに関してまして、今、おっしゃった情報発信ですとか、応援隊の獲得、拡大などがございます。ステップ2、「大糸線を楽しむ」では、大糸線に関するイベントの参加、各自SNSで発信していただいて、先ほど言ったように裾野を広げる活動。3は、「大糸線を活かす」でツアーの実施、沿線駅の環境整備。「大糸線をつなげる」ということで、実際に隊員の方に集まっていただくような取組。ステップ5で将来に向けて、持続可能な計画となるように考えていただくということで、5段階の取組を考えておまして、今、その2の大糸線を楽しむというところに差しかかった取組をしておる段階でございます。これから順次、3、4のほうに進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

私も一鉄道ファンなんですが、全国には鉄道ファンがたくさんいます。その鉄道ファンの情報網には、非常に目を見張るものがありまして、その伝達力とか伝播力、広げる力、それはすばらしいものがあります。それで、鉄道ファンからの声が、市のほうにも届いているとのことを聞いていま

すが、それを市民の皆様にもお伝えすることによって、大糸線存続への熱も、さらに増してくるのではないかと思います。

先ほども、その活動内容、ステップ1からステップ5までご説明いただきましたけど、物事は段階を踏んで進めていくというの、これは大切なんですけど、今この鉄道ファンのその力を、一日でも早く発揮してもらおう機会をつくるべきだと思います。

ステップ4には、隊員限定のミーティングや座談会の開催が掲げられていますが、今はコロナ禍ですので、直接1か所に集まってということは無理でしょうけど、リモートの力を使って、そういうちょっと段階を踏むのを、飛び級になってしまいますけれども、そういう取組については、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもも、今まで出張でこなしておった対面の業務がウェブになってきて、最初の頃は、環境も悪くて何やってるか分からんような状況ですが、最近は、もうそれが、ある程度当たり前になってきたという世の中の整備の仕方というのもあるかと思います。

今ほどの1,600名の隊員、多くの方が一遍に集まるというのは、なかなかちょっと私、今、技術的に分からないんですけど、例えば何かの座談会とかそういうやつを発信するとか、そういうSNSを使った部分というのは大きいと思います。

というのは、やはり急激に増えたきっかけというの、ある程度発信力のある人の発言とか、そういうところがきっかけになっておりますので、そういうところは逆に私どもについては、広げていくヒントなのかなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

リモート会議というの1,600人を1か所にというのは厳しいかと思っています。

ただ、前段で話ししました市のほうに届いている鉄道ファンの声を、市から市民の皆さんに発信していくという、そういうご検討をいただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

応援隊の方の皆さんの意見、逆に、先ほどの答弁にもありましたけど、沿線駅の方の意見というのもございますので、そういうところは、またメールマガジン等で発信して、情報共有を図ってい

きたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

北陸新幹線が開業したときに、お隣富山県の黒部宇奈月温泉駅に隣接する富山地方鉄道の新黒部駅というのがありますが、すぐ近くにあるんで、新幹線を降りられた方が、その駅を利用して、宇奈月温泉に向かうという、つまり宇奈月温泉に宿泊する方に対して、多くの乗車券の補助があったということを記憶しております。

当市、糸魚川市も沿線に温泉施設があるという環境にあります。糸魚川としては、似たようなそういう取組等ございましたら、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

すぐ資料が出てなくて恐縮なんです。大町から糸魚川までの沿線の温泉に宿泊いただいた方に、片道分の回数券を提供するというようなことを活性化協議会のほうでもやっておりました。これを今なかなかお客さんの流動がないので、できない活動ですけど、こういうやつもコロナの状況によっては、また再開したいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

観光という観点では、ちょっと乗車券の補助とは異なりますけども、コロナ禍における市の宿泊キャンペーンであります。今すぐGOTキャンペーンにおきまして、平岩駅の最寄りの姫川温泉につきましては、小谷村の温泉宿も一体的に捉えまして、対象宿泊施設としてるところでありまして、あらゆる場面を捉えまして、大糸線の利用促進に向けたPRを行ってるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

やはりコロナがネックになってるような、そういう感じがします。

黒部市の取組は、開業当時、2015年3月14日から約1か月ぐらいで終わってるんですけども、現在、私もちょっと不勉強なんですけど、それに代わるような施策が行われているのでしょうか、ご存じでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

新幹線開業後の1か月間、これは開業の誘客を高めるための議員ご指摘のイベント的な事業でございまして、その後は、富山地方鉄道の取組といたしまして、黒部の新黒部駅から宇奈月温泉駅までの往復切符が、若干割引で買えるという取組が今もなされておるといふふうに調べたところではなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

黒部市の情報ありがとうございます。糸魚川市でも、そういう取組が今示されましたので、コロナが落ち着きましたら、早速ゴーサインを出すというか、そういう形でお願いしたいと思います。

大糸線の存続については、JRや第三セクターなどの鉄道で、それぞれの地域が結ばれていないと、人口減にさらなる拍車がかかると私は思っています。全国のいろいろな地域の廃線を見ますと、廃線という情報が流れたときに鉄道ファンがどっと押し寄せて、名残惜しいねと言って、それで終わっちゃいますよね。それに併せて鉄路がなくなると、その地域がどんどん、どんどん下がっていくというか、そういうのをいろんな事例として見ております。

大糸線の廃線という事態は、もう絶対に避けなければならない大問題ですし、米田市長も廃線という文言に対して、すぐさま反応されて、JR西日本に抗議をされたということですから、そういう意味では、迅速な対応ができたかなというふうに思います。

この大糸線の南小谷北側、南小谷から南側の今、南線、北線というような言い方もしますけども、糸魚川と南小谷をつなぐ、この路線、これは糸魚川だけが生き残りをかける問題ではなくて、さらに南小谷、信濃大町については、松本間のJR東日本の管轄の部分も、鉄路が途絶えると、やはり人流というか、鉄道を利用する人たちの人口減につながるんですね。

つまり、糸魚川駅までつながってないということは、大糸線の南線が、人間の体でいえば盲腸みたいな行き詰まりというか、盲腸線という言い方を鉄道ファンはするんですけど、そういうような状態になって、今度はJR東日本が、維持・運営をしてくために苦勞しなければいけないということになるわけですから、これは協議会も、4市町がタッグを組んで協議会が成り立っているわけですけど、そういうような形で今後も存続に向けてご尽力いただければなというふうに思います。

大糸線のいいところは、やはり昨今の交通事情というのは、自家用車が主流になっていますけど、どなたかの答弁か質問にありましたけど、糸魚川とか安曇野地域の自然を列車の車窓から眺めたり、途中下車をして歩いて、自然や文化に触れたりという体験ができるわけですね。そういう体験の中で、車の運転というのは、ある程度の緊張を強いられますが、鉄道というのはリラックスできて、心に余裕を保ちながら旅ができるという、そういう利点があります。ぜひこのような観光資源が豊

富ですので、それを生かした存続に向けての取組を強く要望いたします。

続いて、1の(3)についてですが、ジオパルなんですけども、ジオパルに立ち寄ることがよくあります。先ほど再三申し上げているとおり、一鉄道ファンで興味をそそられ、自分自身の鉄道模型を持ち込んで走らせることもあります。それで、こういう議会のときも、市振から糸魚川間のえちごトキめき鉄道を利用して、列車時間まで時間が余裕があるときには、立ち寄らせてもらおうと。そういう場所になっていますので、鉄道ファンにとっては、非常にすばらしい空間であると思っています。

そのジオパルには、数多くの鉄道資料が展示されています。先ほどの答弁では、随時展示替えをしながら有効利用をというふうにありましたが、それでもまだ、展示し切れないほどの資料がたくさんあるやに聞いてますし、実際にそこにいらっしゃる方に聞いたら、ちょっと倉庫みたいなところに通していただいて、展示し切れないのたくさんあるんですね。これは個人から提供していただいたものであるので、なおさら提供された方は、自分が提供したものが展示されていないと思ったときに多分、ジオパルを訪れたときに非常にながかりすると思うんですけども、そういうことを避けるためにも、違う方法を考えてみるというのも一つの手かなというふうに思います。具体的には、1回目の質問のところでも話をさせていただきましたが、昨年7月4日から、えちごトキめき鉄道が、国鉄形の観光列車を直江津・市振間で土曜日、日曜日を中心に運行させています。

県境の、自分で言うのも何なんですけど、あの市振駅に週末の昼時に、全国からの鉄道ファンが大勢訪れています。現在31都道府県に、まん延防止の重点措置が取られていますが、こないだの土曜日も、天気よかったのもありますが、30人ぐらい来られていて、親子連れも数名見られました。その前の雪が降った23日の天皇誕生日の日も、悪天候ではあるのに10人は下りませんでした。そういう方々に力をお貸しいただいて、糸魚川市の観光発展に寄与していただけないものかというふうに常々思っております。

現在、折り返しのための停車時間は、18分です。この3月のダイヤ改正で22分に若干延長されますが、22分の滞在時間、残念ながら、市振には旧所、名跡がたくさんあります、ご存じのとおり。だけどそれを訪れる時間ではないんですね。ですから、そのジオパルの鉄道資料の一部を、かつて使用されていた市振駅の、今は使用されていない駅務室を手を加えて、ジオパルの鉄道資料の一部を展示するという方策を自分自身で考えるんですけども、これはもちろん、えちごトキめき鉄道の協議が必要となりますが、いかがでしょうか。

あわせて、市振の駅舎の西側には、大正元年に北陸線が開業した当時に建てられたランプ小屋、危険品庫というのが、ぽつんがあるんです。あれはれんが造りですので、これも鉄道遺産として非常に価値が高いものというふうに思っております。

そういうものもありますので、できれば、その市振駅の活用をお考えいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

えちごトキめき鉄道の資料によりますと、直江津のD51レールパークを訪れた方が、次に行きたい場所というのが、1番がジオパルということでございます。近くに水族館がある中で、やはり鉄道ファンの皆様は、そちらを選んでもという実情がございます。

また、和泉議員、今おっしゃった観光急行につきましては、私も2度ほど乗車しましたが、確かに市振駅で30人ぐらいの方が降りて、時間20分程度潰しておられるといったような状況です。今、和泉議員ご提案いただいたものについては、セキュリティ対策等で少し課題はありますけれども、えちごトキめき鉄道並びに地元の皆さんと、少し協議してみたいなというふうに思っています。

また、これは市振駅に限らず、ほかの駅でも展開してもいいのではないかなというふうに今のところ考えています。

また、れんが倉庫につきましては、文化財等の登録が可能かどうか、またえちごトキめき鉄道とも相談しながら進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

ありがとうございます。さらに市振の駅舎の中には、市振地区の観光案内図というのが、多分手書きだとは思いますが、海のほうから山を眺めて、どこどこにどういうものがあるのかというのが、要するに天険親不知の辺りまでの案内図があります。

土曜日に兵庫県から来られた親子連れと話したら、超レアですねっておっしゃっているんですよ。セキュリティの話されたんですけど、あれ価値を認められる方が、かなり大きいので盗まれるということはないと思うんですけども、価値が分かる方は、ひょっとして心が揺れるかもしれない、そういうものだと思います。

関所の名前が書いてあったりとか、海水浴場とかというのが書いてあるんですけども、そういう遺産もありますので、ぜひご検討いただければというふうに思います。

市振という地名は、皆さんもご存じですけど、越後の国の一の振り出しで一振りというところから、市振になっておるわけですが、江戸時代の幕府直轄の50関の関所がありましたが、そのうちの重要拠点の市振の関所があったり、手前みそになりますけど、私の家の松尾芭蕉の桔梗屋跡とか、明治天皇の御巡幸時の休憩所とか、あるいは曹洞宗長円寺の境内にある相馬御風先生の揮毫による芭蕉の句碑があります。

そういうものもやっぱり、ただ鉄道ファンだけではなくて、歴史・文化に興味・関心のある方への誘致と結びつけていくことによって、この糸魚川の観光、地域振興を成し遂げていくことができるのではないかなというふうに思いますので、要望させていただきます。

次に、いじめ問題と「特別の教科道徳」に係る子供の心の成長についてです。

いじめの件数の増加というのは、いじめに発展しないうちに、未然のうちに対応した結果であるということは理解できました。

ただ、過去3年間の件数よりも2倍に上がるというような状況になっていると思いますが、その

現場での積極的な認知のほかにいじめ件数の増加の背景にあると考えられることがありましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

確かに初期対応に重点を置いて、疑わしいものも含めて認知を行い、早期解消、初期対応に重点を置いて、早期解消を図るためには、認知数が向上するものというふうに我々どもも捉えておりました。特に小学校においては、日常的な子供同士のトラブルというものは多く起こるものであります。したがって、今回、小学校のほうも認知件数が増えています。

コロナ禍ということに、単純に原因を求めることはできないんですけれども、いじめ等のトラブルに結びつく要因としては、幾つかあると思います。例えば行事とか部活とか、そういった教育活動が中止、あるいは削減、縮小されるというふうなことで、本来、自分が活躍すべき場、活躍して自己肯定感、それから自己有用感が高まるような場が失われて、結果的に自己実現が図れずに自信を失ってしまう、そういったいらいら感から、いじめに走ってしまうというふうなトラブルに走ってしまうというふうなこともあります。

また、授業の中で過度な密接を避ける意味で、今までのような討論だとか、あるいは触れ合ったり、あるいは体験したりする活動が制限する中で、やっぱり人間関係づくりの力が育たないというふうなことも考えられなくはないというふうに、こちらでは捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

増加の背景として考えられるものを幾つか挙げていただきましたが、やはりコロナがここにも、子供たちの心にも侵入してきているという、非常に大変な事態ではありますが、そういうときであるからこそ、学校教育の役割というのは、今まで以上に大きなものというふうに考えます。

私は、偉人教育という話をさせていただいたんですけども、学校教育の中での道徳の授業で、自分以外の人物の生きざまを学んで、視野を広げていくことが大事かなと思うんですけども、具体的にどのような授業・取組をされているかをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

道徳が教科化されてきて、道徳で使っていた副読本が、教科書というふうな形になりました。道徳の教科書、糸魚川市で採用されている教科書を見ますと、歴史や文化、それからスポーツなど

様々な分野で活躍、それから業績を上げている人物を取り上げております。

また、それらをベースにしながら、糸魚川市ならではの地域の発展に貢献した人物、あるいは文化の振興に貢献した人物、そういったものも各校で地域の実情に応じて、発達段階に応じて取り上げながら、年間指導計画の中に位置づけて、指導を行っている。様々な道徳的価値に基づいて、子供たちの心の育成を図るため、指導を行っているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

やはり小学校、中学校で、いきなり日本人の誇りというふうに言っても、あまりにも飛躍し過ぎる部分があるかと思しますので、やはり地元糸魚川で活躍された方々の生きざまを子供たちに伝えていくとか。あるいは先ほどのご答弁で、歴史、文化、スポーツと。小学校1年生では、サッカーの日本代表、なでしこジャパンの澤 穂希さんのことが取り上げられていたのを見ましたが、そのような形で、より子供たちが身近に感じるような方々も、子供たちの心を耕していくのに活用できるのではないかなというふうに思います。

特に、僕も野球に携わっていたわけですが、特にスポーツで活躍されてる方というのは、大体小さい頃に将来の夢を何かに書き残していますよね。そういうような子供たちが夢を描ける、希望が持てるような形につなげていただければありがたいなというふうに思います。

最後に、このコロナパンデミックが終息の兆しが見えない状況下にあります。学校現場としては、大切なお子さんたちをお預かりしてるわけですが、その大変さというのは、私も現場にいた経験がありますので、これは想像に難くありません。そのような緊張感を伴う中ではありますが、将来あらゆる分野に羽ばたいていく糸魚川の子供たちの夢を描く力を、ぜひ教育現場で養っていただきたいと思います。

夢を実現するためには、あの二宮尊徳のような生きざま、精神に学ぶことが大切かと私は思っています。

「積小為大」という言葉がありますが、小さな努力を積み重ねて、やがて大きな収穫や発展に結びつく。小事をおろそかにして大事をなすことはできないという、そういう考え方です。どのような環境下であっても地道な自助努力をして、自分自身ができることを積み重ねて、夢を実現していく姿は、これは感銘を受けます。

残念ながら、昨今、二宮尊徳像の撤去がされていることを聞きます。それは、薪を背負って、本を読んでいるその銅像に、ながらスマホを連想させるということですが、物事の本質が分かっていない大人の人が多いと思います。あの銅像というのは、何事かをなすための寸暇を惜しんでの象徴の像でありますから、その本質が見失われていることを非常に残念に思っています。

偉人教育は、歴史上の人物や著名人など、自分以外の人的人生を疑似体験できるものだというふうに考えますし、そのような点でいろいろな人物の生きざまを学ぶことによって、子供たちの人生における選択肢が増えていくものと思いますが、最後に教育長、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

子供たちの将来にわたって、自分の夢や希望をしっかりと自分の心と対話しながら、つくり上げながら、頑張る努力し、夢の実現に向かっていくものですが、その成長過程において、今ほどお話のあった偉人教育、やっぱり歴史上に残る人物、それから、糸魚川の発展のために頑張ってきた郷土の偉人、先達、先覚者、様々な方がおられますけれども、子供たちは、小学校、中学校の特別な教科、道徳の授業を通して、学年に応じて様々な人物を学びます。いろんな方々の生き方に触れます。そういった機会の中で、そういった中で自分自身の心が響く人物に会ったときに、初めて何かこう自我関与といいたいでしょうか、自分の心が震えて、一つの目標になっていくというふうな部分の過程が、物すごく大事だというふうに思っています。そのために担任の先生方の考えもあるというふうに思うんですけれども、やっぱり指導計画に基づく中で、成長段階に応じて、いろんな方々の生き方を学ぶ、その中を通して自分自身の確たる志とか、憧れとか、目標みたいなものもしっかりと持ち続ける中で、自分自身の成長につながっていくんだらうなというふうに思っています。そういった意味では、大変大事な教育の場面だと捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

偉人と言われるような人は、特別な人というよりは、何か人間が事をなすためには、あらゆる条件がそろってから、事に当たるといのはなかなかかなわないことだと思うんですね。私もかなりの偉人伝読ませてもらってますけど、何か1つ欠けていても、それを克服しながら自分の夢とか目標を達成していこうという人が多いわけですね。全て条件がそろって、人生で成功したというのは、数少ないというふうに思っています。

ですから、コロナ禍で体験学習が減っている、制限がかけられてる中であるからこそ、座学ではありますけど、そういうようないろんな人たちの生きざまを教育現場で授けていただければというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。再開を3時40分といたします。

〈午後3時25分 休憩〉